

# ニュース文読解における メタディスコースマーカ―の知識の測定 ―日本語母語話者と韓国人日本語学習者の予測能力の 比較を基に―

金 宥 暻\*

(e-mail: yukyeong123@hanmail.net)

## 目 次

1. 問題の所在
2. 先行研究
3. 本研究の目的
4. 調査の概要
  - 4-1. 調査の方法
  - 4-2. 被験者
  - 4-3. 評価
5. 結果と考察

## 1. 問題の所在

学術論文や評論のように論理性の高いテキストを書くためには、文法や語彙の知識を正確に運用できるというだけでは不十分である。それは、日本語母語話者

\* 우송대학교 일본어센터 강사

なら誰でも上手に日本語のテキストが書けるわけではないということからも明らかであろう。同様に、日本語能力試験 1 級レベル以上の学習者で、日本語で学術論文のような論理性の高いテキストが作成できる上級韓国人日本語学習者が書いたテキストにおいても、文法や語彙の間違いはみられないが、一読しただけでは何を述べたいのか分からないものがある。例えば、以下の例を見ていただきたい。以下の例文は 文法や語彙の間違いだけを訂正したものである。

## (1)

①昔より今はたばこを吸う人が増えていることは事実だと思っています。②だんだんたばこに対する考え方も変わっています。③私も以前とは考え方が変わりましたが、私の個人的な意見は自らがたばこを吸うことは自由だから問題ないというものです。④でも自由について責任を守らない場合は問題が起きます。⑤たとえばたばこを吸えば自分の欲求満足はできますが、他人がたばこの煙でいろいろな被害をもらうことがあります。⑥もちろん人間の権利は重要ですが、たばこを吸うのは喫煙場所だけにして、公共の場所では吸わないようにするのは責任だと言いたいです。⑦最近では女子のたばこを吸う人が増えており、私はあまりいい現象とは思えないが、今は別の観点で見るようになりました。⑧おそらく喫煙について男女を差別することもおかしいと思います。⑨そして男であれ女であれ、吸うのは関係がないと思いますから大丈夫だと考えていますが、子どもとか中高学生の吸煙は絶対にだめだといわなければならない。⑩たばこの表紙の広告を見ると子どもと妊娠婦は健康を損なうから気を付けてくださいと書いてあるのはたばこが良くないからではないかという気がします。⑪いつもたばこは100害無益だから吸わないほうが1000回もいいと昔聞いたことがあります。⑫でもここまでは私の考えですが、たばこで友達になることもあるし、ストレスがたまった時も役に立つから絶対に悪いとは言えません。⑬そして私の意見を要約すれば吸うのはいいですけど他人にあまりじゃまにならないよう、吸うなり吸わないなりした方がいいと思います。⑭つまり健康は大切だから元気な時に守った方が重要だと思います。

もし、テキストの分かりにくさの原因が語彙や文法の間違いであれば、間違いを修正したため、読みやすくなっているはずである。しかし、文法や語彙の間違

いがないにも関わらず、分かりにくいところはある。すなわち、テキストが読みやすくなるためには文法や語彙以外に様々な要因が解決できる必要がある。次の例文を見ていただきたい。これは岩淵（1960:p. 33）から引用したテキストで、日本語母語話者が書いたテキストである。

この席上述べられた主な意見としては、金融の正常化については、貸出し金利を引下げることは必要だが、各企業の体質改善と税制度との関係を考慮して、施策を講ずることが大切であること、預金の金利については、資本の蓄積の面からみて、現在は、まだ金利を引下げる時期ではないこと、次に絹人絹織物については最近業界の景気が良くなっているといわれているが、人絹織物はいぜん二割の生産制限をしており、人絹糸も三割から四割の生産制限をしている状態なので、必ずしも景気がよくなっているとはいえないこと、今日、開かれた北陸財政金融懇談会で、このような意見が述べられました。

岩淵（1960）は、「このテキストを、落ち着いてゆっくり読んだ場合には分かるが、アナウンスを聞いたのでは内容がつかみにくい」とし、テキストの中の三つの意見を「第一に・・・、第二に・・・、第三に・・・というように、言い表す必要がある」と指摘している。以上の二つの例文は韓国人日本語学習者はもちろん日本語母語話者のテキストにもよくみられるものであるが、日本語教育研究ではこれまで分析の対象とされてこなかった。

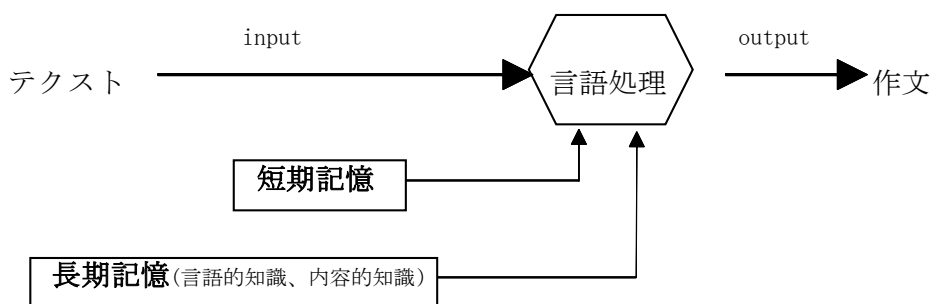
以上の「第一に」、「第二に」、「第三に」が読み手の理解の手がかりとなり、それまでに保持していた内容を基に次の内容を予測しながら読んでいく。これがメタディスコースマーカーであり、読み手にとってメタディスコースマーカーは個々の部分に関係づける手助けとなる。なお、本研究では韓国人日本語学習者が論理性の高い日本語のテキストを作成することを目標とするため、韓国人日本語学習者を書き手とし、日本語のテキストを理解してもらった読み手は日本語母語話者と想定し、論を進める。

## 2. 先行研究

書き手はテキストを書くとき、読み手に理解されていると思いながら論を展開していく。また、読み手は「多分この話だろう」と予測しながら、読んでいく。読み手はテキストを読む時はそれまでに読んだ部分に戻ることはできても今読んでいる部分より先を知ることはできない。その意味で、テキストを読んでいる最中に全体の内容や構造を意識することは困難であり、読み手にとってテキストの構造は、現時点の理解を前に理解したことに結びつけることによって再構成される過程であると言える。このとき読み手の心内表象が書き手のそれと一致するのであれば、そのテキストは分かりやすいテキストとなるが、一致しない場合は分かりにくいテキストとなる。

すなわち、読み手がテキストに接したときの理解の過程は以下の分析図を通して説明できる（金、2006）。

〈分析図〉 日本語母語話者（読み手）の理解の過程（筆者作成）



分析図によれば、読み手はテキストに接した瞬間からテキスト理解のために短期記憶や長期記憶から言語処理や推論のために必要な知識を多様でかつ複雑な認知処理を行う。この時、一旦短期記憶として処理された情報は、必要によってリハーサルを通して長期記憶となる。また、短期記憶におけるテキストの解釈の際に読み手がすでにテキストに関する長期記憶を有していると、長期記憶から当該知識を取り出して推論を行うことになる。

この分析図から日本語母語話者（読み手）が韓国人日本語学習者（書き手）のテキストが理解できないのは言語処理ができないことと同様であると考えられることができる。このように言語処理ができないことには要因がある。同様の指摘がRumelhart (1981) にもみられ、Rumelhart (1981) は「テキストが正しく理解できない要因」として次の3つを挙げて説明している。

- (1) 読み手が適切なスキーマ（長期記憶）を持っていない場合
- (2) 読み手は適切なスキーマを（長期記憶）持っているが、書き手がそのスキーマ（長期記憶）を示唆するに十分な手がかりを提供していない場合
- (3) 読み手はテキストの一貫した解釈を見出すが、それは書き手によって意図されたものとは異なる場合

金 (2006) の分析図にRumelhart (1981) を照らし合わせて考えてみると、Rumelhart (1981) が提示している (1) は読み手と書き手が共通の専門知識を有するのであれば読み手は適切な長期記憶を持っているといえるため、書き手が分かりにくいテキストを作成する原因の究明を目的とする本研究で考慮するものではないと考える。また、(3) は読み手がテキスト理解そのものにおいては成功したと考えられ、韓国人日本語学習者のテキストの分かりにくさの原因を探る本研究の目的とはかけ離れている。一方、(2) はテキストを書く際の書き手のスキルが問われるものであることから、本稿の目的である韓国人日本語学習者が作成した日本語のテキストの分かりにくさの原因を明らかにするという点で最も適切であると考えられる。語彙や文法の間違いないにも関わらず韓国人日本語学習者の日本語のテキストが分かりにくい理由は、書き手が読み手の長期記憶の中にある言語的知識に合う文脈を書いていないためであると結論付けることができる。

この「書き手が読み手の理解を助ける十分な手がかり」を金 (2009) ではテキストの中で道標の役割をするメタディスコースマーカであるとしている。

金 (2009) では、言語による円滑かつ効果的なコミュニケーションのためには、「何を伝えるか」という点とともに「どう伝えるか」という点が重要な要素となるとしている。そして、「どう伝えるか」といった道標の役割としてメタディス

コースマーカーを切り口として、韓国人日本語学習者が作成した日本語のテキストに含まれるメタディスコースマーカーが実際に読み手の理解に有用であるかどうかを考察した。その結果、次のような結論に達した。(1)メタディスコースマーカーの量的数はテキストの分かりやすさにそれほど影響を与えない。また、特定メタディスコースマーカーの過剰使用は、テキストが分かりにくくなる原因になる可能性がある。(2)メタディスコースマーカーの使用頻度は、テキストが分かりやすさに影響を与える傾向がある。わかりやすいテキストを書くためにはメタディスコースマーカーの役割が重要であり、韓国人日本語学習者が作成したテキストの中にはテキストの内容に適さないメタディスコースマーカーの使用が観察されることを報告している。

### 3. 本研究の目的

以上の先行研究から、韓国人日本語学習者が作成したテキストが読みにくくなる要因はいろいろあるが、メタディスコースマーカーに焦点を当てた理由は、わかりやすいテキストを書くためにメタディスコースマーカーを適切に用いることが重要であるということがわかったからである。

すなわち、書き手（韓国人日本語学習者）がテキストの中でメタディスコースマーカーを適切に使用するか否かによって論理性が高くなるかどうかが決まり、読み手（日本語母語話者）の理解を助けるか妨害するかが決まると言える。すなわち、韓国人日本語学習者が論理性の高い日本語のテキストを書くためには、メタディスコースマーカーの明確な知識が必要である。そこで、本研究では、韓国人日本語学習者が作成した日本語のテキストがわかりにくい理由は書き手が適切なメタディスコースマーカーを用いていないことが原因であると考え、メタディスコースマーカーについての知識を究明することを目的とする。また、本研究の目的を明らかにするために、韓国人日本語学習者の持っているメタディスコースマーカーの知識を予測方略を調査する方法を用いて観察する。予測方略を用いた理由は読み手はメタディスコースマーカーを手がかりとして次の内容を予測しながら読んでいくと考えたためである。また、韓国人日本語学習者のメタディスコースマーカーに対する知識が正しいかどうかを判断するために、対照郡として日本

語母語話者にも韓国人日本語学習者と同じ方法で調査を行う。

## 4. 調査の概要

### 4-1. 調査の方法

本研究では、メタディスコースマーカーについての知識を究明することを目的とし、韓国人日本語学習者と日本語母語話者の持っているメタディスコースマーカーの知識を予測方略を調査する方法を用いて観察する。

調査の材料文は2012年11月26日のNHKニュースのテキストとする。ニュースのテキストを材料にした理由は、ニュースのテキストはあらかじめ書いて読み上げるという点でテキストの要素が強く、決められた時間に情報をわかりやすく伝えるために論理性の高いテキストを書かなければならないため、本研究の目的と適すると考えたためである。

調査に用いたニュースの内容は、専門的知識がなくても理解できる分野のものにした。なぜなら、専門的知識を要する分野のものにすれば、被験者の専門知識の有無が調査の結果に影響を与えるからである。ただ、調査の際に日本語の訳自体ができなければ調査の結果に影響があると考え、被験者にテキストの訳についての確認はしたが、ニュースの内容についてのフォローアップインタビューは行わなかった。

以下の調査用紙の四角で囲まれているのがメタディスコースマーカーで、下線は、被験者に書かせた部分である。韓国人日本語学習者（書き手）には、語彙力の影響をなくすため、語彙リストを渡した。また、本調査は、予測方略を観察することが目的であるため、韓国語で書いてもよいとした。調査に用いた材料は以下の通りである。

- (1) 韓国の大統領選挙は25日から立候補の届け出が始まり、午前中、支持率でリードする与党のパク・クネ候補が届け出を行い、野党のムン・ジェイン候補との選挙戦が本格的にスタートします。この中で、パク候補は「きょうか

ら新しい時代を開く長い戦いが始まる。私の残りの政治人生すべてを国民にささげる最後の機会を与えてほしい」と述べ、届け出を出しました。一方、最大野党・民主統合党のムン・ジェイン候補は、25日午後、立候補の届け出を行う予定です。

(2) 認知症の高齢者など薬を飲むことが困難な人たちのために、製薬会社の間では、飲み薬のかわりとして「貼り薬」の開発に乗り出す動きが相次いでいます。認知症の治療薬で、皮膚に貼るだけで成分が体内に吸収される貼り薬を開発しました。会社側によりますと、薬の服用を嫌がる人や飲み込むことが難しい人でも薬を貼るだけで効果があるため、介護をする人の負担も軽くできるとして利用者が増えているということです。

(3) 11月25日は、156年前に日本で初めて、北海道函館市で国産のストーブがたかれた日とされています。これを記念して、復元したストーブの火入れ式が行われました。

(4) 手作りのロボットを使って技術やアイデアを競い合う「全国高等専門学校ロボットコンテスト」が、25日、東京で開かれ、優勝は岩手県の一関工業高等専門学校で、準優勝は熊本県の熊本高等専門学校八代キャンパスでした。また、最も優れたアイデアを出したチームに贈られるロボコン大賞は、栃木県の小山工業高等専門学校が受賞しました。

(5) 日本とは季節が正反対の南半球にあるオーストラリアでは、本格的な夏を前に、25日も気温が30度近くまで上がるなど暑い日が続いています。イベントでは、衣装を着たまま5キロのコースを走るため、体力を消耗しないようゆっくり走る人の姿が目立ち、中にはペットと一緒に歩いてゴールを目指す人もいて、参加者は思い思いのペースでイベントを楽しんでいました。

(6) 江戸時代のストーブを復元して紹介する資料館を訪れた人たちは、作業の様子を興味深そうに見たあと、ストーブに手をかざして暖かさを確かめていました。



(7) 今月 19 日に行われる韓国の大統領選挙が行われますが、最新の世論調査によりますと、若者や無党派層など有権者の 20% 近くが支持する候補をまだ決めていないと答えており、両陣営ともこうした有権者の支持をどこまで取り込めるかが課題となっています。

#### 4-2. 被験者

被験者は、日本語母語話者 3 名、韓国人日本語学習者 11 名である。韓国人日本語学習者（書き手）の日本語能力は日本語能力試験 1 級レベル程度である。場合によっては、今回の調査に用いた被験者の数について疑問を抱くかもしれないが、日本語母語話者の予測能力は驚くほど一致するという研究結果（寺村 1987）から、被験者の数によって大きな差が生じるとは考えにくい。また、今回の調査から、日本語母語話者（読み手）と韓国人日本語学習者（書き手）の予測能力の観察を試み、作文教育に応用する点から十分意味ある調査であると考えられる。

#### 4-3. 評価

評価は松浦（1997）を参考に、次の 4 段階にした。ただ、松浦（1997）には「前件術語と後件の内容的なつながりは理解できるが、ニュース文として不適切なもの、あるいは文脈から見て不適切なもの」を含み、5 段階で評価しているが、本研究の目的である「メタディスコースマーカーの後の内容の予測を比較する」と関係なく、ジャンルに関わる問題であると考え、除外した。また、評価に関しては、調査者とともに韓国人で大学で日本語を教えている方に協力を得て二人で話し合っ行った。日本語母語話者でない方に協力を得た理由は、本調査の目的がメタディスコースマーカーの知識について日本語母語話者と違いがあるかどうかを確認することを目的にしているため、韓国語での回答を許容しているからである。

4 点：前件と後件のつながりが自然であるもの。

3 点：メタディスコースマーカーに関する知識はあるものの、前件と後件のつながりが自然でないと判断されるもの。

2点：メタディスコースマーカに関する知識がないと判断されるもの。

1点：テストの趣旨を理解していないもの、無回答のもの。

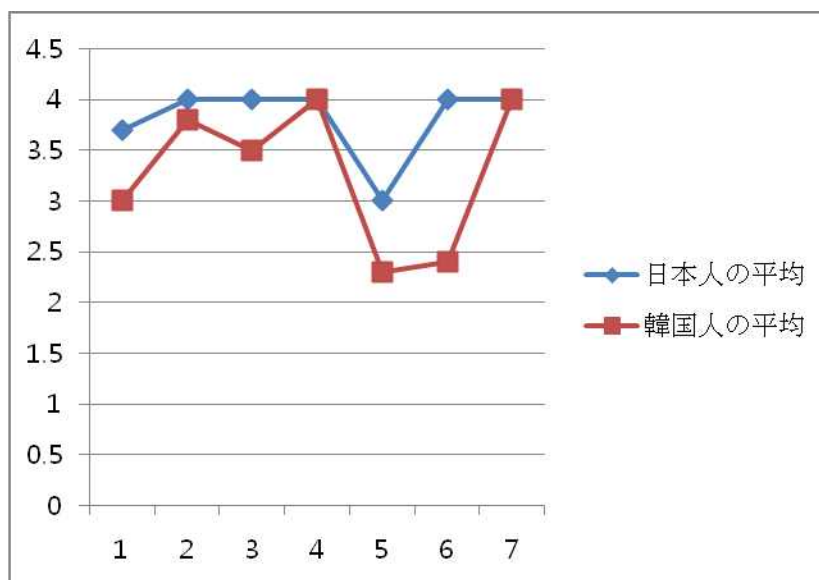
## 5. 結果と考察

以下の表は、各ニュースに対する回答を点数に置き換えて平均点を出したもので、図はそれをグラフに表示したものである。

<表> 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の予測方略の平均

問題	1	2	3	4	5	6	7
日本人の平均	3.7	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	4.0
韓国人の平均	3.0	3.8	3.5	4.0	2.3	2.4	4.0

<図> 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の予測方略の平均



図をみると、問題2、問題4、問題7は日本語母語話者（読み手）と韓国人日本語学習者（書き手）と間でほとんど差がみられなかった。すなわち、条件の「と」、順接の接続詞の「また」、逆接の接続詞の「が」については、韓国人日本語学習者は日本語母語話者同様の知識を持っており、日本語母語話者（読み手）が韓国人日本語学習者（書き手）のテキストを読んだときにわかりにくいとする要因にはならないことがわかる。これに対して、7つの問題の中でもっとも差が大きかったのは6番、次に1番、5番、3番の順であった。このうち、もっとも差が大きい6番と1番について韓国人日本語学習者が書いた回答を考察する。5番も1番と同じ差があったが、5番は様々な回答が出る話題であるため、考察からは除外した。

6番については、「あと」のつぎに、前件と内容的に関連があり、前件の動作が完了した後の動作を記述した場合は4点を与えた。日本語母語話者（読み手）は、「口々に「江戸時代にあんな技術があったなんて驚きだ」と感想をもらしていた」などを記述していた。これに対して2点以下の点数をとった韓国人日本語学習者（書き手）は「日本語母語話者としてプライドを感じたといううわさがあった」、「その技術を真似してストーブを作りました」、「ストーブの使用方法についての説明を聞いた、感動した、最近のストーブは使いやすいねと言った」と書いている。

1番については、「一方」は二つの事項を対応する際に用いる接続詞であり、「一方」の後、それ以前に出てきた朴候補と対応できるもう一人の候補についての記述を含んでいれば「一方」というメタディスコースマーカーの知識をもっていると見なし、4点を与えた。1番について日本語母語話者は、「ムンジェイン候補は「厳しい戦いになると思うが、多くの国民の支持を得られるよう、最善を尽くしたい」と述べ、同日、届け出を出しました」などを記述していた。これに対して2点以下の点数をとった韓国人日本語学習者は、「二人の候補に対する恐れの声も高かった」、「一部では朴候補の言葉は信用できないという意見も出た」、「国民と最初の女性大統領に対する期待と憂慮を表した」と書いている。

以上の結果を考察すると、6番は「あと」自体についての知識は持っているものの、後件に前件の内容と関連した内容を拡大していくことが要求されるという知識がなく、関連性のないテキストを「あと」というメタディスコースマーカー

のあとに記述したことが推測できる。このことは、韓国人日本語学習者であってもメタディスコースマーカ―の知識は持っているものの、前件と後件の内容と関連してどのようなメタディスコースマーカ―がより適切かという知識はないことが予測される。また、1 番については、対照の接続詞は「しかし」、「これに対して」、「一方」などがあるが、それぞれの接続詞の使い方の違いについての知識がないことが予測される。

以上から、韓国人日本語学習者（書き手）は上級になってもメタディスコースマーカ―自体についての知識とは別に、実際にテキストの中でメタディスコースマーカ―を適切に書くための運用能力が不足することが分かった。

## 6. 今後の課題

本研究では、読みやすいテキストを書くためにはメタディスコースマーカ―の適切な使用が重要であるという点に焦点を当て、調査方法として今まで聴解研究に用いられた予測方略を用いて、メタディスコースマーカ―の後、日本語母語話者（読み手）と韓国人日本語学習者（書き手）の予測方略の違いを観察した。その結果、韓国人日本語学習者（書き手）は、「あと」と「一方」というメタディスコースマーカ―自体についての知識はあるものの、テキストの中でどのように用いるかといった運用能力は不足することがわかった。今後は、本研究の続きとして、韓国人日本語学習者に知識化されていないメタディスコースマーカ―を解明し、日本語教育の現場で応用することを試みる。

## 【参考文献】

- 岩淵悦太郎 (1960) 『悪文』 日本評論社
- 金有暲 (2006) 「日本語学習者の文章の分かりにくさについて — 言語的側面と認知的側面からの原因分析—」、『POLYGLOSSIA』12巻、立命館アジア太平洋大学言語研究センター
- 金有暲 (2009) 「学習者の日本語の文章におけるメタディスコースマーカー使用の有用性の考察」、日語日文学44号、大韓日語日文学、pp. 147-162
- 西條美紀 (1999) 『談話におけるメタ言語の役割』 風間書房
- 寺村秀夫 (1987) 「聞き取りにおける予測能力と文法的知識」 『日本語学』 第6巻 第3号、明治書院、56-68
- 松浦恵津子 (1997) 「ニュース文読解における予測能力 — テ形接続を中心とした日本語母語話者と日本語学習者との比較—」、1997年科学研究報告書、pp. 87-105
- Rumelhart, D. E. (1981). Schemata: The building blocks of cognition, In J. T. Gathrie (Ed.), *Comprehension and Teaching: Research reviews*, Newark: International Reading Association. 3-26

## 要 旨

本研究では、読みやすいテキストを書くためにはメタディスコースマーカ―の適切な使用が重要であるという点に焦点を当て、調査方法として今まで聴解研究に用いられた予測能力を用いて、メタディスコースマーカ―の後、読み手（日本語母語話者）が書き手（韓国人日本語学習者）の予測能力の違いを観察した。その結果、「と」、「また」、「が」については韓国人日本語学習者がすでに日本語母語話者同様の知識を持っており、書き手である韓国人日本語学習者がテキストを書いた場合に読み手がわかりにくいと判断する要因にはならないことがわかった。しかし、「あと」と「一方」というメタディスコースマーカ―についてはメタディスコースマーカ―自体の知識はあるものの、テキストの中でどのように用いるかといった知識がなく、読み手が書き手のテキストを読んだときにわかりにくいと判断する要因であることがわかった。

キーワード：テキスト、メタディスコースマーカ―、予測能力、作文教育

투 고 : 2013. 5. 31  
1차심사 : 2013. 6. 15  
2차심사 : 2013. 7. 6